



「人権感覚をみがく」～校長先生・朝礼講話より～

12月4日から人権週間が始まります。この後、生徒会を中心に人権集会が行われます。その前に、今日の皆さんが体育館へ入ってくる様子についての感想を話します。皆さんが体育館に入ってくる様子は、いつも大変整然としています。特に今日は、雨が降っており、その雨音が屋根に当たって響いていましたが、その音がやかましく感じるほど整然としており、弥富北中の伝統の力を感じる素晴らしいものでした。

さて、今日の人権集会に話を戻します。先生たちは、皆さんに教育を行っていますが、その教育は、根拠となる法律である教育基本法第1条の教育の目的に基づいて行っています。そこには、次のように書いてあります。

「教育は人格の形成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期しておこなわなければならない。」

これが、先生たちが一番頭において行わなければならないことです。人格の形成において、そのために一番大切なことが人権感覚を身につけることだと先生は思っています。今日の集会では、この人権についてしっかり考えてほしいと思います。

先日、ローマ教皇が広島・長崎を訪問されました。核兵器のない世界の実現に向けた発信をしてくださいました。そのニュースの中から、人権感覚を学ぶ上で大切だと感じた言葉をいくつか紹介します。

「核兵器のない世界を実現することは可能であり、必要不可欠であると確信している。」

「ここは核攻撃が人道上也環境上也破滅的な結果をもたらすことの証人である町だ。」

「武器の製造や維持、改良は、とてつもないテロ行為だ。」

「戦争のための原子力利用は、犯罪以外の何物でもなく倫理に反する。」

「最新鋭の兵器を製造したり、核の脅威を使って他国を威嚇したりしながら、どうして平和について話すことができるのか。」

「戦争はもういらない。」

2016年に、来日した当時のアメリカ大統領オバマさんも広島を訪問し発信してくれました。このような人権感覚を身につけてほしいと思います。

私たち弥富市の中学2年生は、毎年、広島へ出かけます。先日もお話ししたように被爆者2世として、世界の平和、戦争のない世界、核兵器の廃絶を願い、活動しなくてはならないと思います。

先日、1年生はSDGsの出前授業を受けました。その感想で多くの人々の記憶に残った言葉に

「我々は、地球を救う機会を持つ最後の世代となるかもしれない」という言葉がありました。

本当に、人権感覚を磨くことが大切なことになってきます。今日の人権集会でしっかりと考えてください。

「人権集会」

校長先生の講話の後、生徒会執行部の生徒を中心に人権集会が行われました。最初に世界人権宣言・人権週間についての簡単に紹介し、そのあと

「人権とは、この世に生まれてくるときに、幸せになるために誰にももっている権利のこと。例えば、自分の思っていることを発表すること・自分の選んだ宗教を信じること・自由に職業を選んで働くこと・勉強すること・自分の選んだ人と結婚すること、などなどです。その権利を奪ったり脅かしたりしてはいけないこと、また仲間外しや無視、悪口、いじめにつながるような行為も絶対にやってはいけないことです。」

「人権は、難しいものではなく、誰でも、心で理解し、感じることでできるものです。ひとりひとり真剣に考えながら参加しましょう。」

と呼びかけ、人権集会が始まりました。

全生徒が、自分の問題として真剣に考え、人権感覚を磨くことができたのではないのでしょうか。

